

6 学修成果

(1) お茶の水女子大学アカデミック・エシックス

詳しくは、本学ホームページ https://www.ocha.ac.jp/research/menu/ethics_indicator/index.html にある研究倫理を参照。

「学ぶ意欲のある全ての女性の真摯な夢の実現の場として存在する」

お茶の水女子大学は140年の歴史を通して、女性が高等教育を受けることのできる唯一の場として、先駆的な女性が多く学び、それぞれに社会をリードしてきました。その精神を今日も受け継ぎつつ、真摯に学ぶ女性を育成し、教育と研究の成果を社会に還元することによって、日本のみならず国際的に社会をリードし未来を創造する女性のためのより高度な教育研究機関となることを志向しています。

学びにおいて、自らの問題関心・研究テーマを、自らの努力によって怠りなく「磨き続ける」ことが求められます。本学では、高度な専門教育と並んでリベラル・アーツ教育を重視しており、学びの中で問題関心を広げ、専門を深め、固有のテーマを発見していくことが求められます。本学で学ぶ学生が、自らの関心において、また自らの責任において、学びを実現することを目標としています。

学びには、責任が伴います。著作権・プライバシーなど、研究活動によって他人の権利を侵害するようなことはあってはなりません。

上記の精神は、日々の皆さんの学修成果を表す場（試験やレポート等）においてもぜひ反映させていただくことを望みます。学問に対して真摯な態度で臨むことは、高等教育を受ける者として何よりも基本的なことです。

大学は、文化を創造し、自然の原理を探究する場です。自らの研究に責任を持ち、お茶大生として先人の業績に敬意を払い、自らの知と新しい文化を創造することを意識してください。

(2) 試験

各学期の終わりに期末試験が設けられています。各科目とも開講学期の終了時に試験を行うのが原則です。

これらの試験は、その期間内の平常の時間割で行われるのが通例です。学生は、事前に教員と必ず打ち合わせ、筆記試験・レポートの別、その日時・場所について承知しておかねばなりません。

なお、試験の際には学生証の提示を求める場合があります。また、遅刻した場合の入室制限及び退室を認める時間を設けることがあります。

不正行為

カンニング等の不正行為は学生にとってあるまじき行為であり、本学では以下のように処します。

I 試験において不正行為を行った者については、理事・副学長（教育担当）は、別に定める手続きにより、次の措置を行います。

- (1) 当該学期履修科目の全ての受験科目を無効とする。
- (2) 学内に当該措置（措置事例）について告示する。

II 前項の不正行為については、同項に規定する措置のほか、学則に規定する懲戒の対象とします。

追試験

病気その他止むを得ない理由により、期末試験を受けられなかった学生については、担当教員が特に必要があると認めた場合に限り追試験を行うことがあります。

追試験を希望する者は当該学期末試験終了後1週間以内に学務課に「追試験願」及び「欠席理由を証明する書類」を提出しなければなりません。「追試験願」は学務課で配付します。

ただし、修了予定者は前記に関わらず、直ちに申し出ることとします。

(3) レポート・論文提出

成績評価は筆記試験のほかに、レポートや論文提出によって行われる場合もあります。レポート・論文作成においても、以下のような不正行為を絶対に行ってはいけません。

本学では学則第59条に規定する懲戒の対象となります。

<レポート・論文における不正行為の例>

- ・文献や著書、論文、資料、インターネット上の文章、図表、写真や絵などを、引用先を明記しないまま、自分のオリジナルであるかのように用いること。
- ・先輩や友人、知人などが作成した文章、図表、写真や絵などを、自分が作成したものとして用いること（レポートの使い回し）。

自分のレポート・論文上で他人のアイデアを盗用することは、筆記試験におけるカンニングと同様の不正行為です。評価する側から見れば、コピー&ペーストによって作成されたレポートや論文かどうかは明らかにわかります。

以下のルールを守ってレポートや論文を作成してください。

<レポート・論文作成のルール>

- ・文献や著書、論文、資料、インターネット上から引用した場合は、引用部分を「」などで明示し、どこからどこまでの部分を引用したのかを明記すること。
- ・自分のレポートや論文で述べる見解や発想が、何らかの文献や著書、論文、資料、インターネットに負っている場合は、それがどこであるかを明らかにすること。

※ 詳細は各授業担当の教員に確認してください。また、図書館にレポートや論文の執筆の方法について書かれた参考書のコーナーがありますので、参考にしてください。

(4) 成績評価

1. 成績評価

成績の評価は、原則として試験、平常の学修成果を総合しておこなわれ、100点満点で、60点以上を合格とする素点による評価又はレターグレードA、B、C、Dによる評定で評価されます。成績証明書には合格科目について、学修状況チェックシステムによる成績通知では不合格科目も含めて記載します。レターグレードと評点区間、及び評価基準の対応関係は次のとおりです。

- A (80点以上)：基本的な目標を十分に達成している。
- B (80点未満～70点以上)：基本的な目標を達成している。
- C (70点未満～60点以上)：基本的な目標を最低限度達成している。
- D (60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。不合格。

履修放棄によって評定できない場合はD（不合格）です。授業科目によって素点評価がなされる場合とレターグレードで評定される場合がありますが、後者の場合はつぎの規定により評点が定まります。

A = 90、B = 75、C = 65、D（不合格） = 55

2. GPA制度

本学はGPA（Grade Point Average）を学修成果指標に用いています。この指標は、各学生の授業科目ごとの成績評価（100点満点の素点評価R）を1）の算定方法でグレードポイント（GP）に置き換え、2）のようにそのGPに当該科目の単位数を乗じて、それらを履修数分合算し、その値を履修総単位数で割った値です。不合格科目のGPは0、GPA算定の分母にはその科目の単位数が加算されます。そのため、不合格科目があるとGPAの値は大きく損失します。

1) $GP = (R-55) / 10$ ただし、 $GP < 0.5$ は $GP = 0.0$ とする。ただし、Rは100点満点の素点評価

2) $GPA = (\text{履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数})$ の総和/履修総単位数

- ・履修総単位数には不合格となった科目（GP = 0）の単位数も含まれる。

3. GPA指標 (f-strict GPA) の採用

本学ではGPAの機能特性を十全に発揮させるため、f-strict GPAを採用します。f-strict GPAは現在、多くの大学で採用されているGPAと実用上、十分な互換性があります。f-strict GP (A) では最高点が4.5、最低点が0.5になります。学内でGPAを種々の用途に使う場合には(成績の合格域全範囲について原成績を忠実に反映する)f-strict GP (A) を用います。

※f-general GPへの変換方法

f-general GPが4.0以上の値(100点満点の換算で95点以上)を一律4.0、1.0以下、0.5以上の値を一律1.0にすることで、国内外の大学との通用性のあるGP (f-general GP) に変換できます。

4. GPA算定の対象科目

他機関での履修(留学を含む)や科目等履修、あるいは本学における評価でレターグレードや素点ではなく、単位認定として評価される科目や「合格・不合格」による評定で成績がでる科目を除くすべての科目が対象です。

5. GPAの算定期日

GPAの算定は、GPA算定基準日までに確定した成績に基づいて行います。算定基準日は原則、前期は9月15日、後期は3月20日です。前期に算定される科目は、当該年度の前学期、第1学期、第2学期で履修した科目を含めた入学して以降の全履修科目です。後期に算定される科目は、当該年度の後学期、第3学期、第4学期、通年で履修した科目を含めた入学して以降の全履修科目です。

6. 成績証明書への記載

成績証明書にはf-strict GP (A) を記載します。また、GPA算定方法の説明や「不可」評価の単位数を記載し、成績とGPA間の整合性を明白にします。

7. 成績評価情報に関する利用について

成績評価は、本学成績評価情報に関する利用ガイドライン等の定めに従い、個人情報保護を徹底した上で、調査・研究あるいは学修支援に利用することがあります。

(5) カラーコードナンバリング [CCNum]

本学では、大学院を含むすべての授業科目について、カリキュラム構成上の位置づけや到達目標に照らした水準の違いを数値コードとともに色別に明示しています。

数値コード(ナンバリング)は5桁から成り、1桁目が上記の科目の位置づけや内容水準の違いをあらわし、学士課程の授業科目を含め、異なる色分類と数値が図のように対応しています。2、3桁目は大学院の場合、その科目を開講している専攻をあらわしています。4桁目は現在未使用です。5桁目は16進数表記によるその科目の単位数を表しています。

このナンバリングを目安にして、たとえば、科目を開講している専攻を確認したり、博士前期・後期にかかわらず履修できる共通科目か否かを判断するなど、履修計画の立案に役立ててください。